

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人一人の希望を叶える進路を実現する 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を進める 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする
--

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現 (1) 希望の進路の実現に向け、教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する。 ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る。 イ 授業における ICT の効果的な活用を進め、視覚化、情報活用による教育効果をさらに高める。 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 30 年度 78.9%）を、2021 年度には、80%にする。 (2) 3 年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる。 ア 1 年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施することで、早期の目標設定につなげる。 イ 進路決定まで、学年進行に合わせて、多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する。 ウ 大学等との連携や補習、自習室活用の拡充により、難関大学の進学実績を向上させる。 国公立・難関私立大学の合格者数を、平成 30 年度 14 人を、2021 年度には 25 人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成 30 年度 33 人を 2021 年度には 50 人に近づける。
2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う (1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む。 ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する。 イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む。 ウ 「部活動」の活性化により、学校生活をより充実したものにし、その活動を通して、公共心を育む。 エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して、生徒・教職員の負担軽減を図る。 生徒向け学校教育自己診断における生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、平成 30 年度における満足度「文化祭・体育祭」91.2%、「生徒会活動」90.2%、「部活動」86.4%を、2021 年度には、すべての項目が 90%を超える。
3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を進める (1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深める。 ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し、活動に生かす。 (2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充する。「地域とともにある、進学したい学校 No.1」をより確かなものとする。 ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小学校や他の教育機関との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる。 イ PTA、同窓会の協力の下、海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる。 (3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する。 ア HP、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する。 イ 「体験入学」、「学校説明会」について、生徒が主体となった運営を継続し、「藤高（ふじたか）」の良さを、さらにわかりやすく伝えていく。
4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする (1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る。 ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、一人一人の生徒支援の充実を図る。 イ 98%の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る。 (2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する。 ア 「総合学習推進委員会」、「初任期育成チーム：ひよたま」を中心に、生徒数減の将来に向けた展望を、具体的に検討していく。 (3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る。 ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<b>【全般的な特徴】</b> 6 割以上の項目において肯定的回答率が前年度を上回った。また、全 21 項目中 13 項目において肯定的回答率が 8 割を超えており（7 割以上で 17 項目）全般的な満足度は高いといえる。特に大きく数値が向上した項目は、「人権学習」「教育相談」「集会での話」「地域交流」に関する設問であり、今年度の成果が明確に表れたものと確信する。	第 1 回(R1.7.12 実施) 第 2 回(R1.10.30 実施) 第 3 回(R2.2.19 実施) 第 1 回 ・前年度の学校教育自己診断の数値についての検討（授業満足度は他校と比較しても高いので、維持されたい） ・いじめなどに対する対応は迅速に行われているので安心できる ・細かな点までアンケートで確認しているのが大事である

<p>【学習指導】授業に対する全般的な満足度は79%と高評価である。しかし、細目を検証すると、パソコン機器などの活用と成績評価に関する評価が極めて高い(87%と82%)のに対し、授業のわかりやすさ自体は、さらなる改善が必要な結果(67%)である。</p> <p>【生徒(進路)指導】生活指導は適切に行われ(75%)、進路に関する指導も適切である(83%)という結果から、指導について生徒から信頼を得ている。</p> <p>【その他】「学校に行くのが楽しい」(83%)や「今のクラスに友達がいる」(95%)という結果は、安全で安心な学校ができている証拠であり、この状況が維持できるよう取り組んでいく。</p>	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間における取組内容は、生徒のためになるものである</li> <li>総合的な探究の時間は、3年間継続的に実施し、卒業後に生活に資するものになるよう工夫をされたい</li> </ul> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HPへのアクセス数が増加しているのに学校教育自己診断の「HPや学校メールの利用率」に関する回答が低いのは、中学校関係者が多く閲覧しているからではないか。</li> <li>今年度の目標設定に届かなかった項目について、来年度どのような工夫をして改善していくかが肝心であろう。</li> <li>地域での清掃活動やイベントへのクラブ員派遣などを通し貢献してもらい、感謝している。</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現</p>	<p>(1) 希望の進路の実現に向けた、教員の指導力の向上、生徒が主体的に授業に取り組む工夫</p> <p>ア 「主体的に学ぶ力」の向上、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善</p> <p>イ 授業における効果的なICT活用</p> <p>(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実</p> <p>ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実</p> <p>イ 多様な進路への対応</p> <p>ウ 自習室活用の拡充</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「主体的に学ぶ力」の育成のために、事前学習となる「予習・復習」のために、スタディサプリ活用の拡大と充実を図るとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、各教科で実践内容や方法を検討していく。</p> <p>イ プロジェクタやPCを効果的に活用した授業を展開することで、学力向上につなげる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 1年次から「総合探究」の時間等を活用した進路意識の定着、2年次からの看護・医療系を中心とした講習の充実を図ることで、学習への意欲を向上させる。</p> <p>イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する。</p> <p>ウ 日々の補習、自習室の活用を促進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成30年度78.9%)を80%以上にする。</p> <p>イ 同自己診断による「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある。」(平成30年度87.9%)を維持し、90%に近づける。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」(平成30年度76.7%)を78%以上にする。</p> <p>イ 同自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる。」(平成30年度81.8%)を維持し、85%に近づける。</p> <p>ウ 自習室の活用を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数を、平成30年度18人を20人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成30年度43人を45人に近づける。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度は、79.9%と前年度を上回ったが、目標値80%にはわずかに届かなかったので、今後も授業改善にむけた取組みを継続したい。( )</p> <p>イ 同自己診断によるこの項目の肯定的回答率は88.8%と、前年度を上回り90%に近づいた。教員へのICT活用の訴えかけが功を奏したと思われる。( )</p> <p>(2)</p> <p>ア 同自己診断におけるこの項目の肯定的回答率は78.9%と、目標値を達成した。1年における「総学の時間」の取り組み方が浸透してきたと思われる( )</p> <p>イ 同自己診断におけるこの項目の肯定的回答率は83.3%と前年度を上回り、85%に近づけるとい目標を達成した。学年と進路部の関係が機能したと思われる。( )</p> <p>ウ 国公立・難関私立大学の合格者数18人、それに準じる有名私立大学合格者数42人と、いずれも目標を達成できなかった。( )</p>
<p>2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う</p>	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力の育成</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織を企画・運営する生徒の力の育成、及び生徒リーダーの養成</p> <p>イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」の育成</p> <p>ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成</p> <p>エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」、「学校休業日」の完全実施、部活動の効率化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部と3年学年団が連携し、生徒のリーダー集団を育成する。そのリーダー集団に、企画から1、2年を巻き込んだ組織運営に取り組ませる。</p> <p>イ 文化的行事において、生徒会を中心にクラス単位での企画・運営の中で、クラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる。</p> <p>ウ 新入生に向けて、入部の促進を図り、加入率の向上を図る。また、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。</p> <p>エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、部活動の効率化を図っていく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア イ 生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい。」(平成30年度91.2%)を維持する。また、同自己診断による「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会はよく活動している。」(平成30年度90.2%)を維持する。</p> <p>ウ 新入生の部活動加入率8割をめざす。同自己診断による「本校は、部活動が盛んである。」(平成30年度86.4%)を維持し、90%に近づける。</p> <p>エ クラブごとの年間活動計画をHPに掲載し、実際の活動とチェックすることにより、「ノークラブデー」の完全実施をする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア イ 同自己診断における「フェス体フェス文」に関する項目の肯定的回答率は、89.3%と前年度を維持できなかったが、今年度の応援団に対するルール厳格化が一時的に影響していると考えられる。( )</p> <p>同自己診断による「生徒会の活躍」に関する肯定的回答率は、94.3%と前年度を大きく上回り、今後も継続的なリーダー育成に心がけたい。( )</p> <p>ウ 新入生の部活動加入率は74.6%と目標を下回り( ) 同自己診断による「部活動」に関する項目の肯定的回答率は、86.8%で前年度をわずかに上回ったが目標は達成できなかった。( )</p> <p>エ 「全校一斉退庁日」クラブごとの年間活動計画の保護者へに通知、「ノークラブデー」の完全実施をすることができた。( )</p>

<p>3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進める</p>	<p>(1) 支援学校との連携を通して、インクルーシブ教育システムの理解と実践 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践</p> <p>(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動の充実 「地域とともにある、進学したい学校 No.1」 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続 イ 海外研修の継続・充実</p> <p>(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動の充実 ア HP、藤高メルマガのさらなる充実 イ 生徒が主体の「体験入学」、「学校説明会」のさらなる充実</p>	<p>(1) ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させ、その広報活動を行う。 同時に、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かす。また、年間を通じて「人権教育」を推進し、理解を深める。</p> <p>(2) ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図る。 特に、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を行う。 イ ニュージーランドへの海外研修の継続 と内容の充実を図るとともに、本校との交流活動の充実を図る。</p> <p>(3) ア HPの改善を進める。「求められる情報」のタイムリーな更新を続けていく。 イ 「体験入学」、「学校説明会」について、さらにICTを活用し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや人権について学ぶ機会がある。」（平成30年度84.9%）を維持し、90%に近づける。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断による「PTAや地域、近隣の学校（支援学校や北小）との交流をしている。」（平成30年度81.0%）を維持し、85%に近づける。 イ 同自己診断による「本校は国際交流活動に力を入れている。」（平成30年度89.2%）を維持し、90%に近づける。 保護者向け学校教育自己診断による「学校は国際交流活動に力を入れている。」（平成30年度84.3%）を維持し、90%に近づける。</p> <p>(3) ア イ 保護者向け学校教育同自己診断による「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている。」（平成30年度68.0%）を、70%以上に。「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」（平成30年65.3%）を、67%以上に。</p>	<p>(1) ア 同自己診断におけるこの項目の肯定的回答率は、89.9%と前年度を大きく上回り目標値を達成した。今後も継続的に取り組む。（ ）</p> <p>(2) ア 同自己診断によるこの項目の肯定的回答率は、86.9%で前年度を大きく上回り目標値(85%)を達成した。今後も継続的に取り組む。（ ） イ 同自己診断によるこの項目の肯定的回答率は80.1%で前年度を下回った。これは、隔年で実施している国際交流事業がない年度であったと思われる。（ ） 保護者向け同自己診断によるこの項目の肯定的回答率は76.5%で前年度を下回り目標は達成できなかった。要因は上に同じである。（ ）</p> <p>(3) アとイ 保護者向け同自己診断による「教育方針」に関する項目の肯定的回答率は、67.5%で、前年度をわずかに下回り（ ）、「HPやメールサービス」に関する肯定的回答率も64.1%で前年度を下回った。（ ）地域の中学校関係者だけでなく、在校生・保護者への閲覧を進める方策を検討していく。</p>
<p>4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 一人一人の生徒支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底</p> <p>(2) 「入学してよかったと言える学校」の継続 ア 「藤高」の将来に向けた展望の検討</p> <p>(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化 防災教育の充実 ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化</p>	<p>(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制の充実を図るとともに、各学年と部活動の連携、保護者との連携を深め、生徒支援体制の充実を図る。 イ 生徒の98%が通学手段として、自転車を利用しているため、地域や警察と連携し、交通安全指導の徹底を図る。</p> <p>(2) ア 生徒数減の将来においても、「入学してよかったと言える学校」を継続していくために、「藤高総合探究推進委員会」、「初任期育成チーム：ひよたま」を中心に、近い将来への具体的方策を検討していく。</p> <p>(3) ア 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室と連携しながら、必要物資の調達等をさらに進めていく。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「悩みを相談できる先生がいる。」（平成30年度58.9%）を、60%以上に。保護者向け学校教育自己診断による「子どもが悩みを相談できる先生がいる。」（平成30年度56.6%）を、58%以上に。 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校での生活について、先生の指導は適切である。」（平成30年度78.5%）を80%以上に。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい。」（平成30年度84.6%）を維持し、90%に近づける。</p> <p>(3) ア 災害発生後に必要な備品の調達を進める。</p>	<p>(1) ア 同自己診断におけるこの項目の肯定的回答率は、63.4%と前年度を大きく上回り（ ）目標値を達成した。また、保護者向け同自己診断によるこの項目の肯定的回答率は、65.6%と前年度を大きく上回り、目標値を達成した。（ ）今後も取組みを継続したい。 イ 同自己診断におけるこの項目の肯定的回答率は、75.1%で前年度を下回った。（ ）これも生徒指導のルール厳格化による一時的低下と考える。</p> <p>(2) ア 同自己診断におけるこの項目の肯定的回答率は、83.3%で前年度を維持することはできなかった。（ ）これも、生徒指導ルールの厳格適用に対する一時的低下と考える。</p> <p>(3) ア 災害発生後に必要な「災害時非常持ち出し袋（水・クッキー・ごはん・簡易トイレ）」を生徒全員分購入し、備蓄することができた。（ ）</p>